

クローバー Clover

第27号

平成26年3月

特集

もしものために、今備える。 男女共同参画の視点で考える防災

- ▶ ワーク・ライフ・バランス推進事業について
 - ▶ 17歳に聞いてみました！
 - ▶ デキる男の家事マニュアル Vol.6 料理編
 - ▶ クローバーコール・一ある日の相談室
 - ▶ まんがでちょこっとジェンダー講座

「とよた男女共同参画プラン」では、人の生涯をクローバーにみたて、それぞれのライフステージを葉の一枚で表現することとし、広く親しんでいただけるよう、通称を「クローバープラン」と名づけました。

このクローバーのマークには、どのライフステージにおいても充実した生活を送ることができる「バランスのとれた社会」をめざすという意味合いも持たせています。

キラッ☆とよた(とよた男女共同参画センター)

〒471-0034 豊田市小坂本町1-25

豊田産業文化センター2階

TEL(0565)31-7780 FAX(0565)31-3270

E-Mail clover@city.toyota.aichi.jp

ホームページ <http://www.hm4.aitai.ne.jp/~clover/>

豊 田 市

もしものために、今 備える

「男女共同参画と防災って、どんな関係があるの？」

その答えは、日本の災害の歴史に見ることができます。阪神・淡路大震災、新潟県中越地震、そして東日本大震災——これらの大きな自然災害のとき、男女それぞれに異なるニーズに配慮した対応が十分にされず、避難所や救援体制のいたるところで問題が浮き彫りとなりました。非常時だからこそ、誰もが協力し合い、少しでも配慮が行き届く環境づくりが必要です。そのためには、男女共同参画の視点を取り入れた防災を平常時から考えておくことが求められます。もしものために、今 備えましょう。

Key word 『男女共同参画』とは？

女性と男性が社会を構成する対等なメンバーとして認め合い、職場・家庭・地域などあらゆる分野で力を合わせ、喜びも責任もともに分かち合うことを言います。

〇〇災害の歴史から見えてきた課題〇〇

男性だって辛いんだ…

男性は力仕事、女性は炊き出し、と役割を決められていた

本当は辛いのに、「男だから」と弱音を吐けず、精神的に限界

仮設住宅などで、男性の引きこもり・孤立が問題に



女性の声を反映して…

下着・生理用品など女性特有の心配事は相談しにくい

男女別トイレも更衣室もなく、プライバシーが確保されない

災害後、女性・子どもへの暴力や性犯罪が増加

これらの不満を解消するため、普段から男女共同参画の視点で防災を考えることが大切です！

豊田市は、動き出しています。

これまで男性が中心だった防災活動に、女性が多くかかわっています！

【災害時支援活動の担い手に 女性の力】

◎災害ボランティアコーディネーター登録者の約半数は女性です。

被災者の自立や被災地の復興のために活躍する災害ボランティアコーディネーター。豊田市で災害が発生すると災害ボランティアセンターが立ち上がり、その運営の一部を担います。豊田市では

約200人が登録され、うち約半数は女性です。

支援の担い手に男性も女性もいると、心強いですね。



(コーディネーター養成講座の様子)

【被災地で働く女性】

◎東日本大震災の被災地で復興支援に携わる、豊田市役所建設部道路維持課の岡本多未さんにお話を伺いました。



震災後、辛い生活を強いられている方々のために「何かしたい」と思い、現地へ赴きました。私は、宮城県宮城郡七ヶ浜町にいます。震災から3年、平穏を取り戻している部分もありますが、未だに我慢をしたり、将来への不安を抱えながら生活している面もあります。

現地での仕事を通して、自然の脅威は人間の予想を簡単に超えるものだ痛感しました。豊田市でも、最悪の事態を想定して市民の方の防災意識をより高めるよう対策をとることが重要だと思います。

男女共同参画の 視点で考える

防災

女性向け防災講座を開催しました！

キラッ☆とよたでは、女性を対象とした防災講座を実施しました。

【女性目線の防災講座】

自分の身を自分で守る大切さや、女性の視点を防災会議や避難所で活かすための知識を学びました。誰でも簡単に作れる「防災スリッパ、カップ」の作成にも熱心に取り組みました。



女性が主体的に防災について考え、行動するためのよいきっかけになったようです。

防災カップ。フードもついた
優れものです！

【クローバーカレッジ】

『女性と防災』というテーマでHUG（H：避難所 U：運営 G：ゲーム）を体験しました。

次々に避難してくる被災者の特徴を把握しながら的確に誘導すること、受講者は悪戦苦闘！避難所運営の「待ったなし」の臨場感と難しさを味わいました。

受講者からは、「女性の視点で防災を考えるよい機会になった」などの声が寄せられました。



高齢の方は通路側にすれば移動が楽ですね！

今、わたしたちにできる備えとは？

✓ 普段から、男女共同参画を意識した生活を送っていますか

「平常時にできないことは、非常時にはなおさらできない」と自覚しましょう。

日ごろ何気なく見聞きしていることも、男女共同参画の視点に照らすと気づくことがあるかもしれません。「妻が食事を作って当たり前」？「夫が家族を養って当たり前」？本当にそうでしょうか。非常時にもお互いを思いやり、支え合えるよう、価値観を見直してみましょう。



わが町の防災



✓ 意思決定の場に女性はいますか

物事を決めるとき、決定者が男性ばかりになってはいませんか？

女性も多く参画することで、より幅広い視点でアイデアを取り入れることができます。リーダー的立場の人を3割以上女性にするなど、数値目標を立てることも良いでしょう。

✓ もしものときの対応を家族や地域で話し合っていますか

「男性だから、女性だから」という単純な役割分担ではなく、「〇〇さんは△△が得意だから」というように、個人の得意分野を活かせるような分担ができるよう日頃から話し合っておきましょう。話し合いの際には、女性や若年層の人でも意見や要望を言いやすい雰囲気を作ることも大切です。



男女共同参画の視点で考える防災は、「非常時にも自分らしさを忘れず、一人ひとりが出来ることを精一杯行い、支え合う」防災です。そして、この「男女共同参画」の考え方は職場・家庭・地域——あらゆる場面に必要で、性別にかかわらず男女ともにイキイキと過ごしていける社会を築くための土台となります。

ぜひ、この機会に男女共同参画について考えてみましょう。

ワーク・ライフ・バランス推進事業について

キラッ☆とよたでは、共働事業提案制度[※]を利用して、
市民団体のブルーバードと共働でワーク・ライフ・バランスの推進事業を
(WLB)
実施しています

※ 行政が協力・連携して取り組みたいと考えるテーマに対する
市民活動団体からの事業提案を、評価及び協議・調整を経て事業化する制度

ブルーバードの皆さんを紹介します



写真：ブルーバードの皆さん

メンバーは、各種コンサルタント（WLB、経営、キャリア）、行政書士、社会保険労務士等で構成されており、各事業所に具体的なアドバイスが可能。

今回は代表の西尾さん（写真前列中央）に団体紹介と共働事業に取り組んでいただいた経緯、意気込みをお聞きしました。

○ブルーバードの団体紹介をお願いします。

ブルーバードは、イキイキ働き豊かに生きることを応援している団体です。

働く（ワーク＝誰かのために何かをする）ことから喜びを得て、人生（ライフ）のドラマを自分らしく楽しむ！そんな豊かな生き方をサポートする活動を、30代～60代のキャリアも立場も年齢も性別も様々な14名で粹に楽しんでいます。

○豊田市の共働事業提案制度に手を挙げた理由と意気込みを教えてください。

イキイキ働きながら人生を楽しめる、ワーク・ライフ・バランスという考え方を広めたい！

できるだけ多くの人にそれを伝えるためには、セミナーでは追いつかず、企業に伝えていかなければと思っていたところ、「事業所とともに進めるワーク・ライフ・バランス」というテーマの豊田市共働事業提案制度の募集がありました。「これだ！！」と、すぐに応募をし、「どうやったら企業の社長さんや人事担当者の方たちが興味を示してくれるのか？」を真剣に考え、企画案を公開審査会でプレゼンテーションしました。

様々な特徴を持ったブルーバードメンバーの持ち味を発揮して、豊田市内の事業所ではたらく市民の皆様に活動の効果が届けられるよう、最善を尽くしてまいります。

共働事業によるワーク・ライフ・バランス推進事業の概要

ブルーバード

訪問伺い・事前連絡

事業所訪問

- ・取組状況や問題等のヒアリング
- ・ニーズ、動向の把握等
- ・制度利用の活用法等の提案、PR

事業所向けセミナー企画・運営

過去の訪問データの提供、
業務内容の指示、打合せ等

チラシ・専用HPの作成、
派遣講師等の提案等

キラッ☆とよた

アドバイザー派遣・講師派遣

- ・助言、講義講演によるワーク・ライフ・バランスの推進

事業所向けセミナー実施

- ・ブルーバードと共催

実施報告

平成25年10月に事業所向けセミナー「業績アップに直結！イキイキ職場をつくらう」を開催しました。

事業所の人事担当者、経営者等が参加し、受講者がイキイキと働ける職場づくりに向けた取組について、お互いに意見交換しながら現役コンサルタントの講師から学びました。



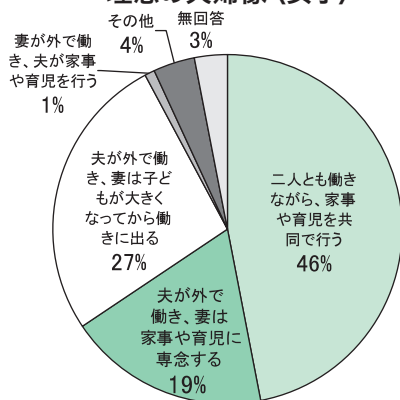


17歳に聞いてみました!

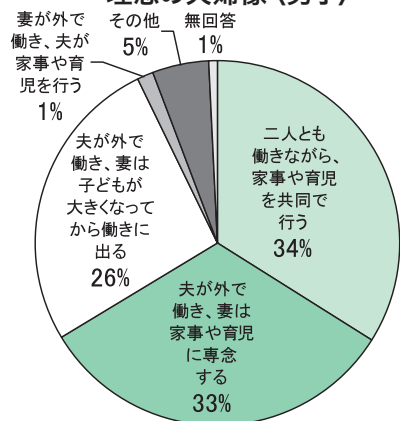
大人への階段を登っている青春真っ最中の高校2年生に、将来のことを聞いてみました。
「まだまだ子どもかな?」と思っていたら、しっかり自分たちの将来のことを考えています。
ご家庭でも、ぜひ話題にしてみてください。

【女子学生128人 男子学生222人 合計350人に聞きました】

理想の夫婦像〈女子〉



理想の夫婦像〈男子〉



Q1 将来、結婚したらどんな夫婦になりたいですか?

平成19年に豊田市が同様の調査を行ったときは、女子では半数近くが「夫が働き、妻は育児・家事に専念」と回答しましたが、今回のアンケート調査では「共働きで、家事・育児も共同で行う」の割合が高くなっており、共働き世帯の増加に伴い、子どもたちが描く未来のライフスタイルにも変化があったことが推察されます。

一方、男子では「夫が外で働き、妻は家事や育児に専念する」が3割強を占めていることも見逃せません。（平成19年の調査でも3割弱を占めていました。）将来の夢に向かって多様な選択ができるこの時期に、既に『男性である自分は外で働き、家庭を支えるものだ』という観念に縛られているのでは・・・と懸念されます。

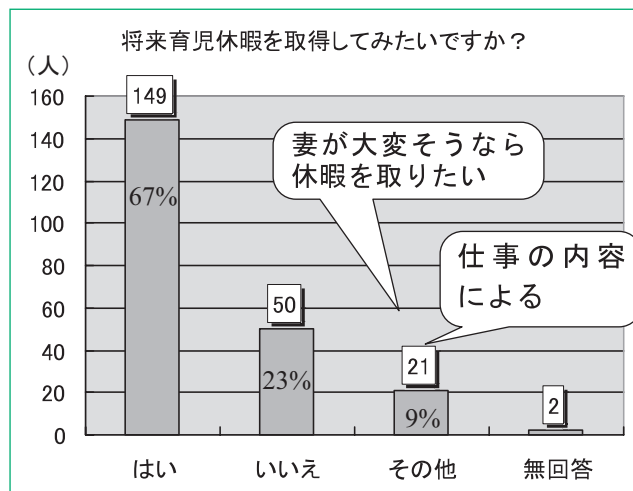


「夫が外で働き、妻は子どもが大きくなってから働きに出る」という意見が男女ともに多いのも、出産・育児に専念する女性が多い豊田市の特徴を現しているのかもしれません。

Q2 子どもが生まれたら育児休暇を取得してみたいですか?〈男子のみ〉

この質問には男子のうち149人が「育児休暇を取得してみたい」と回答しています。育児のための休みを取得することに対して、半数以上が取得してみたいという結果になりました。

“上司や同僚から理解を得られない”“仕事を休むのは気が引ける”等の理由で、育児休暇・休業を取得する男性の割合は依然として3%にも満たない現状ですが、高校生の彼らが結婚して子どもが生まれる頃には、この希望どおり休暇取得者が半数を超える社会であってほしいですね。



子どもたちが将来に向けあらゆる選択をするとき、性別にとらわれず個性と能力に応じた進路を選択できるように、子どもの身近な手本である大人自身も自らの考え方や行動について、女性・男性という従来からの固定的な役割分担や考え方を見直していきましょう。

デキる男の 家事マニュアル

VOL. 6 “料理編” ～買い物から調理、後片付けまで～

第6弾の家事マニュアル“料理編”は、キラ☆とよたが主催した料理講座の参加者で結成された自主グループ『おやじの食卓』の皆さんに、買い物から後片付けまで料理を通じた家事力アップの秘訣を伺いました。

Step.1

まずは『買い物』

買い物&予算管理のポイント

『肉、野菜選びのポイントは “鮮度・品質”と“価格”のバランス』

翌日の調理実習に備え、食材の調達にスーパーへ。
献立に必要な肉、野菜などを手際よく選びます。

安くて良いものに越したことはありませんが、鮮度や品質に見合った値段かどうかを見極める目を養うことが賢く間違いの無い買い物につながります。



Step.2

いざ『調理』

楽しんで作ることが美味しさのヒミツ



今日の献立はちょっと奮発して

- ・牛肉のワイン煮
- ・野菜のチャウダー

レシピに沿って焼き具合や煮込み具合を確認しながら作ります。
もちろん味見も忘れずに。

好みの器選び、盛り付けや配膳も楽しみましょう！



Step.3

最後は『後片付け』

後片付けも調理の一工程



面倒な後片付けも
料理の一部と思えば
苦になりません。

さらに皆で協力す
れば、あっという間
に完了。

料理が楽しくなる

アイデア

アイテム発見！

オリジナル『アームカバー』



皆さんが着用しているお
しゃれなアームカバーは、
メンバーの福岡さんのなん
と手作り！アイデアとセン
スが光ります。料理の楽し
さも倍増！！

おやじの食卓流・料理を楽しむコツをメンバーの皆さんに伺いました。

調理をするだけでなく献立を考えたり食材を選んだり、また器を選んだり、と、どんどん楽しみ方が広がります。そして家族や仲間からの『美味しい！』『ありがとう！』という言葉が最高の励みになり、たまらなくうれしい瞬間です。料理最高！

家事を楽しむことが家事力アップの秘訣のようです。料理に限らず、皆さんも家事の中から楽しみを見つけてみませんか？

女性のための電話相談室

「クローバーコール」(0565) 33-9680

クローバー

相談無料
秘密厳守

あなたのしあわせ みつけましょ



毎週 火・木・金・土 午前10時～午後4時

毎週 水 午前10時～午後1時、午後4時～午後7時

【年末年始・祝日休み、面接相談あり（要予約）】

クローバーコールには年間1000件を超える相談が寄せられます。

自分自身の生き方や健康のこと、家庭・職場での人間関係、夫・恋人からの暴力など、その内容はさまざまです。

クローバーコールでは、女性が抱えるさまざまな悩みに寄り添い、解決の糸口を一緒に考えます。

こんなことは ありませんか？

実家の母が、なにがと
子育てに口を出してき
て困っている

パート先の上司が、私
にはかり雑用を言いつ
ける



夫は、私の外出を細かく
チェックしたり、友人と
のつき合いを制限する

ご近所の井戸端会議、苦手
だけどなかなか断れない

フルタイムで働く私に、夫の
両親は「子どもがかわいそう」
と言う

ひとりで悩まないで！あきらめないで！相談しましょう！

自分らしく生きるために、クローバーコールはあなたを応援します。

ある日の相談室

結婚してからも共働きを続け、子育てもしてきました。子どもが高学年になり、最近は少しずつ手が離れて仕事にも集中できるようになり、「さあ、これからバリバリ頑張るぞ」と思っていた矢先、PTAの役員に推薦されました。すでに役員を経験済みの人も多く、私が引き受けざるを得ない状況です。

実際、役員になれば会合で仕事を休まなくてはならなかったり、休日にも行事に出席したりと大変そうです。私の周りでは、母親が引き受ける家庭が多いですが、そもそも役員は、母親が引き受けなくても、父親が引き受けてもいいのではないかと思いますのですね。

(相談内容から創作したものです)

「PTAの役員を依頼されて…」

今まで、仕事を続けながらの子育ては大変でしたね。お子さんが成長し、仕事もこれからというタイミングで役員に推薦されて戸惑いを感じているのですね。

子育ては母親だけのものではありません。PTA役員を父親・母親のどちらが引き受けるかは夫婦で相談して決めてもよいと思います。役員会や休日の行事など夫婦で役割分担をしたり、PTA活動への参加の仕方はそれぞれの家庭で異なってもよいのではないのでしょうか。

これからも共働きを続けていくために、夫婦で協力し、分担し合っていきたいですね。

